

農事組合法人 元気クローラ組合

■ 農地遊休化による地域の衰退を防ぎ、「元気そば」ブランドを確立



〈法人の概要〉

所在地:〒078-2633 雨竜町字満寿 22 番地 152

代表者:代表理事組合長 清水昭彦

構成員:3名(構成農家3戸)

役員:3名 常時雇用者:1名

設立:平成15年2月 資本金:200万円

事業内容:畑作(転作)／農作業受託

そば24ha(H23年)

経営面積:24ha

農作業受託面積:33ha

売上高:3,575万円(H22年) 交付金も含む

電話:0125-77-2183 FAX:0125-77-2183

〈法人のあゆみ〉

- | | |
|--------|---|
| 平成 9 年 | 小麦・そばの農作業受託組織として、機械利用組合「元気クローラ組合」を農家 5 戸で設立 |
| 15 年 | 機械利用組合を母体とした「農事組合法人元気クローラ組合」を設立 |
| 22 年 | 高齢のため 2 戸が脱退し、構成農家が 3 戸となる
従業員 1 名採用 |

〈設立の経緯・設立後の状況〉

- ・地域内で生産調整面積の拡大による遊休農地の問題が発生していたことから、平成 9 年に小麦・ソバの農作業を受託する組織として、地域の農家 5 戸による機械利用組合「元気クローラ組合」を設立。
- ・平成 14 年から受託面積が徐々に拡大したことにより、法人化の検討を始めた。平成 15 年に個別経営を残して、機械利用組合を母体とした「農事組合法人元気クローラ組合」を設立。転作田を借り入れ、作付面積 45ha でスタート。
- ・法人化の検討に当たっては、主に北海道農業会議に相談したほか、研修会などに参加し、情報を収集して、法人のメリット・デメリットや機械・施設などの財産の引継方法などについて検討。法人経営では、農地遊休化による地域の衰退を防ぐため、作業受託体制の確立とともに、実需者(製粉業者・そば店等)の要望を第一に考える「そばづくり」を目指すこととした。
- ・ソバを中心に生産しており、全量を「元気そば」のブランド名で農協を通じ、道外の製粉会社と契約栽培を行っている。また、環境に配慮した栽培に取り組むため、平成 20 年 4 月にエコファーマーに認定。土づくり、品質改善に努めている。
- ・平成 22 年には栽培技術などの取組が評価され、社団法人日本そば協会が主催する全国そば優良表彰の農林水産省生産局長賞を受賞。
- ・平成 22 年、高齢のため 2 戸が脱退し、構成員が 3 戸となったが、後継者の確保のために同じ地域の農業者 1 名を従業員として採用した。

〈法人経営で生じた課題と対応策〉

- ・機械の更新が難しいため、修理代をかけて使用している。
- ・後継者の確保のため、同じ地域で農業経営している農業者1名を従業員として採用した。現在は従業員であるが、いずれは構成員とすることを視野に入れている。

〈法人経営のメリット・デメリット〉

- ・法人化により色々な事業に取り組めるので、メリットの方が大きい。
- ・農業経営と家計が分離できるため、税金対策が立てやすい。
- ・町内における農地の有効活用と高齢化対策に貢献できる。

〈法人が継続するためのポイント〉

- ・経営分析を全員で行い、慎重に設備投資を検討すること。

〈これから法人化を目指す農業者へのメッセージ〉

- ・法人化の意義を明確にする。
- ・複数戸による組織運営を維持するためには収入を得る方法を積極的に考えること。例えば、機械を導入したら、その分の収入をアップする方法を見つけることが必要。

〈特徴的な活動や取り組み〉

- ・土づくり、品質の改善に努め、そばは黒化率70%での収穫と低温での乾燥を徹底している。暗渠を計画的に施工し、毎年サブソイラによる心土破砕を行い、連作障害対策と地力維持を目的に、緑肥として赤クローバーを作付けしており、化学肥料の使用は地域慣行の半分以下となっている。また、全てのほ場の栽培履歴を管理し、肥料費などのコスト削減に努めている。
- ・製粉会社と契約栽培しており、そばの生育や作業状況を知らせる「元気通信」を年12回発行し、製粉会社のホームページ上で公開している。また、定期的に、当法人とそば屋、製粉会社が互いに訪問するなど、タイムリーな情報交換を行うことで、産地と実需者の密接な繋がりを築いている。
- ・全国で一番早い新そばの出荷を目指し、5月10～15日に播種し、8月5日頃収穫する栽培に取り組んでいる。

〈経営目標と将来の展望〉

- ・農地は地域内で売買されることが理想だが、買い手のない農地の増加が予想されるため、地域外の農地であっても、賃貸で受け皿となることを考えている。
- ・安定供給と品質を重視しながら、ほ場の透排水性向上、連作障害対策と地力維持のための間作緑肥(赤クローバー)面積の拡大、そばの風味を重視した栽培体系の確立を目指す。

〈視察等の受入〉

受入については要相談。

連絡先: 0125-77-2183 (担当: 代表理事組合長 清水昭彦)